

トマト温室で夏期休業前の、最後の作業を行いました！（堆肥散布、太陽熱消毒）

前回の実習でトマトを片づけた後、まずは全面に堆肥を散布しました。その量は10aで3t！（大きなバケツ300杯分）



この堆肥は、飛騨高山のトマト農家の方が作られたものを取り寄せています。この堆肥のおかげで土壌の環境が良くなり、定植したトマトが10か月枯れることなく美味しい果実を実らせてくれます。



堆肥を散布してトラクターで耕うんした後は、幅8mの巨大透明シートで温室内の土壌を覆いました。



これにより、土壌中の温度は最高70℃ほどになります。夏の1カ月間、この状態にすることで、土壌中の害虫、病原菌、雑草などを高温により死滅させ、クリーンな状態で次の苗を植えることができます。（太陽熱消毒）



ビニールで覆うだけで行える、薬剤を使わない安価で簡便な消毒方法です。熱が下層にまでしっかり伝わるよう土壌をしっかりと湿らせておくのがポイントです。